



# ミズベリングとは

ミズベリング事務局ディレクター  
滝澤恭平



# 河川 = 公共用物

ユーザーは国民

## 国民の共有財産

国民から求められているのは  
安心・安全の確保だけ？

撥川水系・撥川(福岡県北九州市)

# 文化・風土も含む河川環境

## 川の365日（河川の多様性の重視）

従来の河川整備は、主として洪水や渇水という異常時における被害の軽減対策として実施されてきたが、今後はこれに加え、河川が平常時においても生物の生息・生育の場であること、散策、スポーツ等の利用の場であること、四季折々に変化する美しい自然環境の一つとして地域の風土・文化を形成する重要な要素であることを同時に認識し、すなわち、「川の365日」を意識しつつ、治水、利水、環境に関わる施策を総合的に展開することが重要である。

河川審議会答申「21世紀の社会を展望した  
今後の河川整備の基本方針について」H8.6.28より抜粋

行政による**多様なニーズ**への対応



公共投資減少のなか

行政による**新たな負担**は困難



規制緩和等により**民間活力**

(投資、知恵、ノウハウ) **を活用**

今まで水辺に関心のない  
市民や民間企業を巻き込む



参加しようと

**心を動かすアクション**が必要



**ミズベリング**

# 水辺とまちの未来創造プロジェクト (H26.3)

- 水管理・国土保全局では、『**持続可能で活力のある国土・地域づくり**』の推進にむけ、新たなプロジェクトを立ち上げ
- 水辺とまちの未来のかたちをデザインし、『**つくる**』だけでなく『**育てること**』を視野に入れた持続可能な未来の創造に貢献するため、以下3つのコンセプトのもと『水辺とまちの未来創造プロジェクト』に取り組むこととした。

① まちにある川や**水辺空間の賢い利用**

② 民間企業等の**民間活力の積極的な参画**

③ 市民や企業を巻き込んだ**ソーシャルデザイン**

【ソーシャルデザインとは】(ネット情報)

- ◆ デザインする対象は(モノやカタチだけじゃなく)“**社会**”である
- ◆ 社会をつくるのは(政治家や専門家でなく)一人ひとりの**個人**である
- ◆ (社会を“**変える**”よりも)社会の課題を解決したり、より良い社会を“**つくる**”ことである
- ◆ そして、そのための“**考え方**”である

大



小

### 創造的な新しい発想

市民・企業を巻き込むために

関心のない人々にむけた  
心を動かすアクション

未来

ソーシャルデザイン  
規制緩和や民間活力 →

現状

基準・マニュアル

行政の限界

← 河川管理 →  
(整備)

現 状

多



少

ミズベリングとは

ミズベ+(輪)  
水辺+RING

ミズベ+(進行形)  
水辺+ING

ミズベ  
+(リノベーション)  
水辺+Renovation

かつての

賑わいを失ってしまった

日本の水辺に、

新しい活用の可能性を

創造していくプロジェクト

(初めてつくり出すこと)

市民や企業向け

# 河川管理者にとって

**ミズベリング**は

**⇒持続可能で活力のある  
国土・地域づくりのための手段**

例えば・・・

市民や民間事業者による、今までにない  
河川利用が行われることにより

- ・まちが活性化し人口増加
- ・民間事業者による河川管理・整備  
など、社会的課題に対応

# プロジェクトの実現にむけて・・・

## ミズベリング「外から中に作戦」

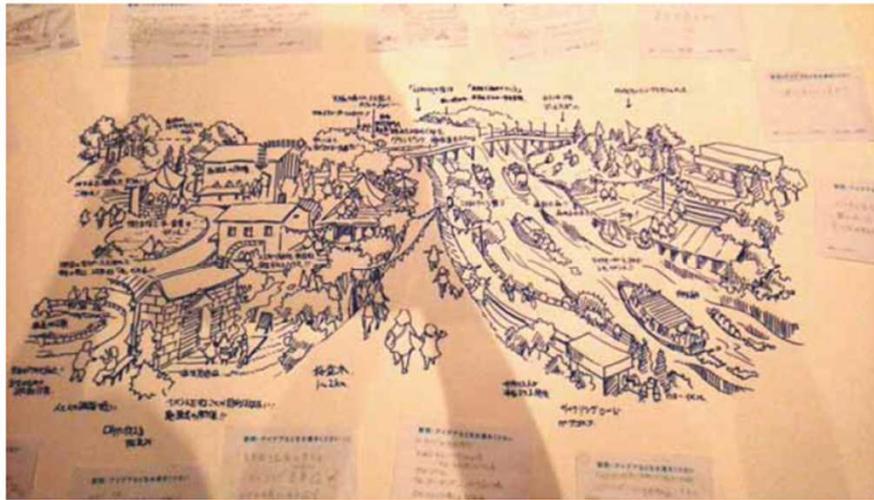
- ・水辺に新しい関心を集める
- ▼
- ・水辺に新しいアイデアを育てる
- ▼
- ・新しい水辺の関係を作る
- ▼
- ・新しい水辺のビジネスや活動を育てる
- ▼
- ・新しい河川行政の人を育てる

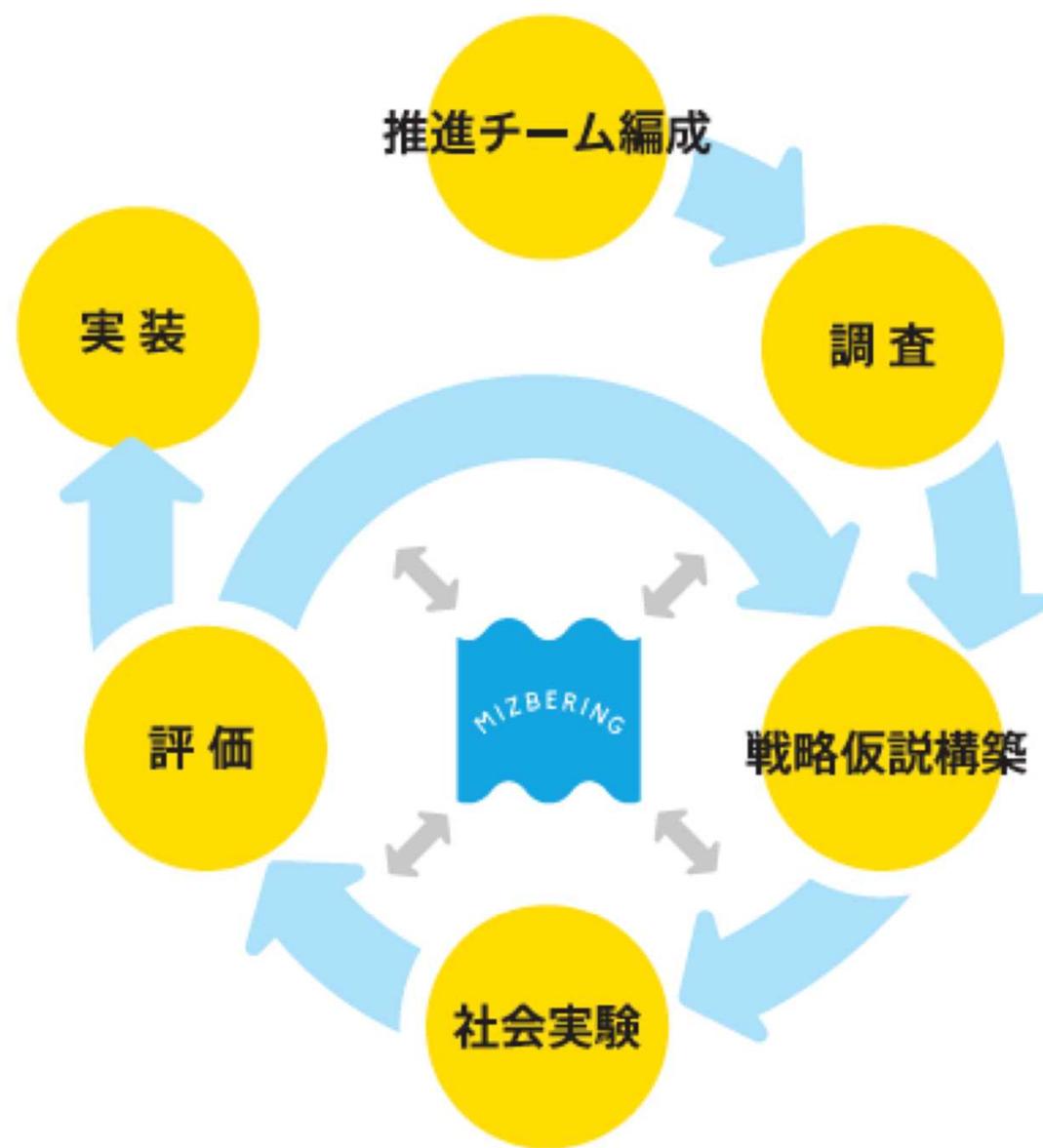
**行政のスキームに住民や民間企業等を巻き込むのではなく、住民や民間企業等の主体的な活動を、行政が応援。**

ここから始める  
(私が始める)



- ・水辺を楽しむ人
- ・水辺で街を変える人
- ・水辺で新しいビジネスを作る人を増やす





ミズベリング・フィードバックサイクル

## 人と人との出会いからアイデアを生み出す考え方 【デアアイデア】

ミズベリングでは、プロジェクトを一人で作り上げるものではなく、チームとなって周回や地域を巻き込んで作り上げます。自分ひとりのアイデアを、一方的に知ってもらうのではなく、人との出会いによって新たなアイデアを生み出すと考えてプロジェクトを進めてみましょう。また、ミズベリングを始めることで、出会いを意識し、積極的にコミュニケーションを行ううちに、自由に新しい自分を見つけられるかもしれません。

こうした出会い、そしてコミュニケーションからアイ

デアを生み出すことをミズベリングメソッドでは、「デアアイデア」と呼びます。デアアイデアは「出会い」+「アイデア」の造語。デアアイデアは、自分のアイデアは自分だけのものではなく「出会った人との間にある」という考え方です。対話した人との間に生まれたアイデアを引っ張り出すという感覚を意識してみましょう。初対面でも、何度も会っている人でも、この考え方をもってコミュニケーションをとると、何らかスパークするものがあるかもしれないという期待感で臨みましょう。

DEAI  
IDEA



ゴールから遡って考えてみよう

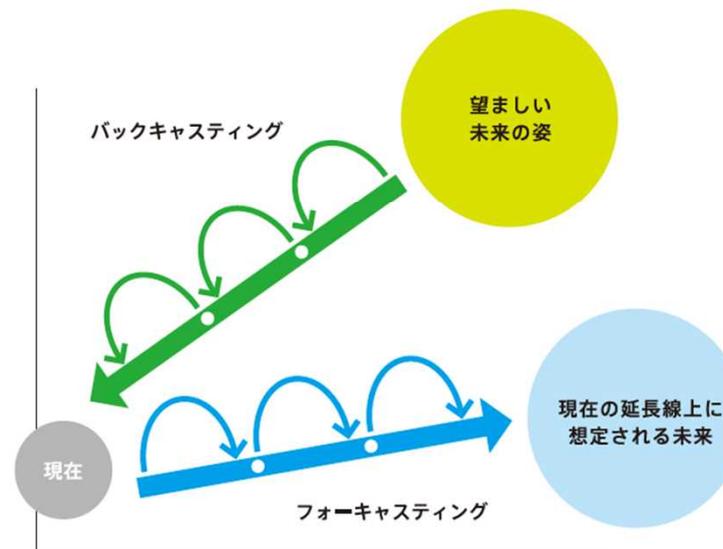
## 【バックキャストिंग】

私たちはプロジェクトや目標に向かって計画を考えたとき、通常はゴールを見据えて段階的に近い未来からイメージしてプロセスを考えがちです。このメソッド「バックキャストिंग」は、ゴールからイメージし、目標を達成するためには何が必要か、どういうことが起こりうるか、そのためには誰がどうあるべきかなど、ゴールから順番にイメージする方法です。

この考え方は、実際にゴールをする時の自分たちやミズベリングの理想的な運営や環境、人の流れなどを具体的にイメージする必要があります。ゴールから現在まで遡ることで、より現実的なビジョンを描けるようになることだけでなく、現在、プロジェクトに参加するそれ

ぞれの職業や現在の立場から離れ、これまでの経験的な観点などから離れることができます。これはプロジェクトの進行のためだけでなく、イベントをよりよく成功させるために非常に重要なポイントです。新しいことを起こすには、既存の秩序を乱すことも必要で、未来の担い手が参加できるよう、プロジェクトのスタート時に取り入れておきたいメソッドです。

どんなプロジェクトでも目的を達成させるためには、立場を意識しているとなかなか物事が進まないものです。このメソッドを取り入れることで、利害を意識せずにプロジェクトの成功へ集中することができるでしょう。

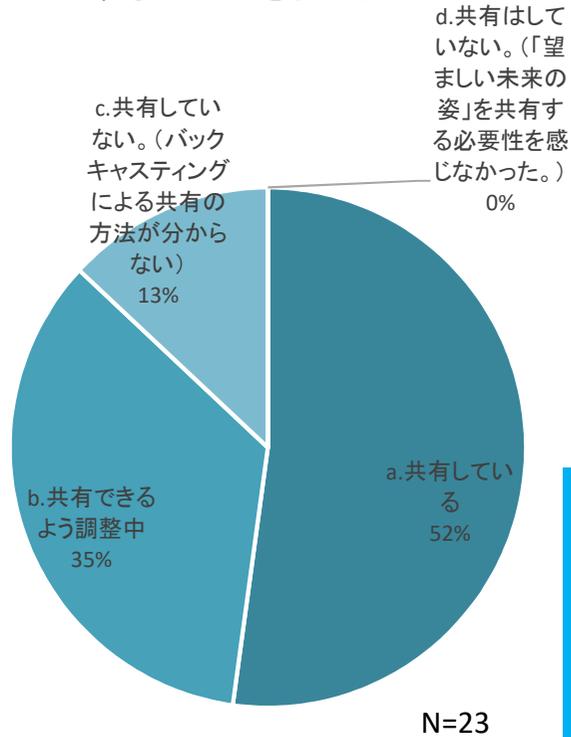


ゴールから何が必要かイメージしてみることで、必要な TO DO や役割が見えてくる

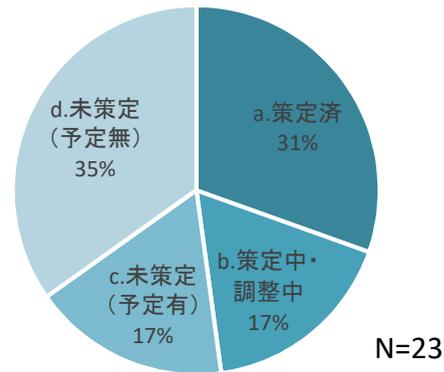
# 全国ミズベリング会議アンケート調査結果から見えること

## 1.ビジョンの共有と計画化

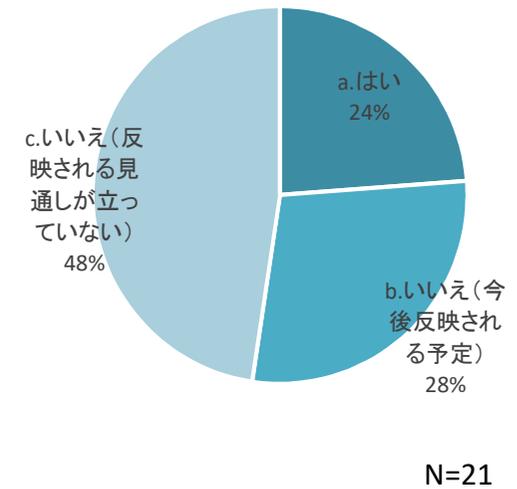
Q5.「ミズベリング〇〇会議」では、まず、構成員や参加者で地域の水辺の利活用について将来像や夢といった漠然とした「望ましい未来の姿」を共有し、「望ましい未来の姿」を実現させるために、今、何が必要かを話し合う“バックキャスト”形式での計画立案が望ましいと考えています。「ミズベリング〇〇会議」等によって「望ましい未来の姿」を構成員や参加者で共有することはできましたか？



Q6.(ア)「ミズベリング〇〇会議」等において、Q5の「望ましい未来の姿」を目指し(「望ましい未来の姿」を共有されていない場合も含む。)、何が必要かを話し合い、実現に向け、具体的な「計画」や構成員や参加者それぞれが何を行っていくのかといった「政策」を策定することが出来ましたか？



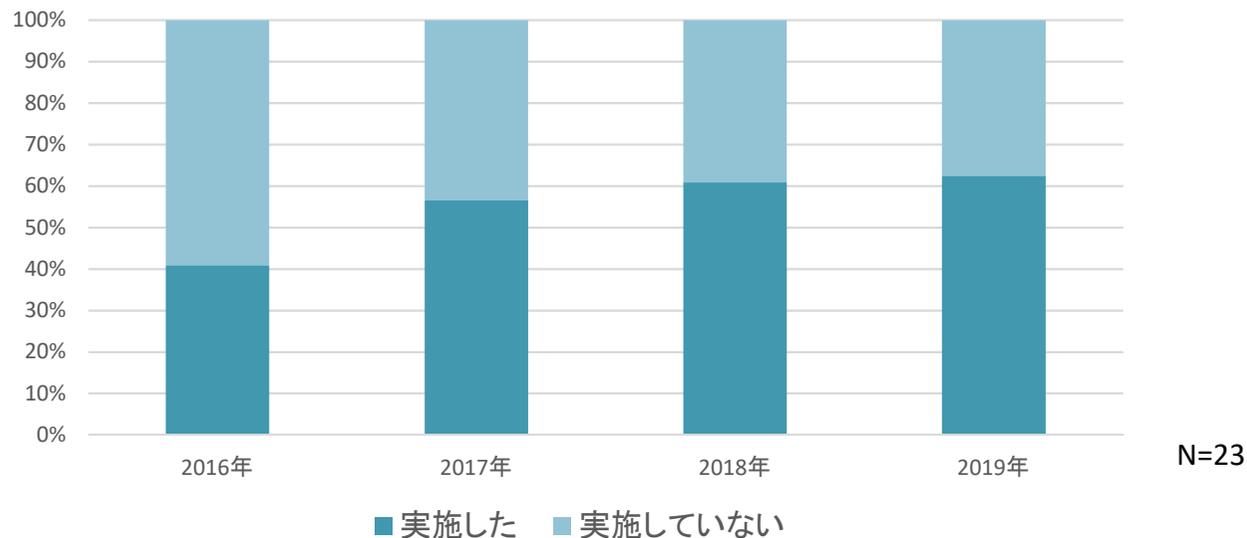
Q6.(ウ)上記(ア)の計画や政策には、河川管理者・自治体等、行政が策定する法定計画にも反映されていますか？



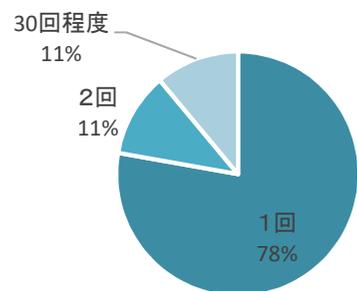
- 半数の地域でビジョンを共有し、3割で共有できるよう調整中。
- ビジョンに基づいた計画・政策を半数が策定済、策定中。さらに2割は策定予定。
- 計画は、半数が法定計画に反映か、反映予定。  
→多くの地域でビジョンが共有され、半数以上でビジョンに基づいた計画、政策化が行われていた。

## 2.社会実験

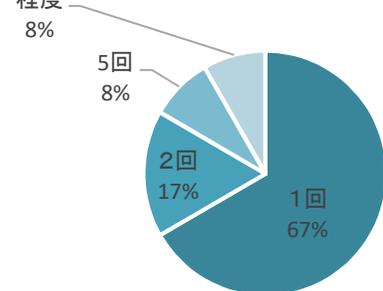
社会実験の実施有無



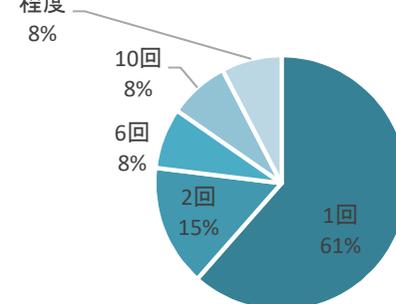
Q8.(ア)2016年(実施頻度)



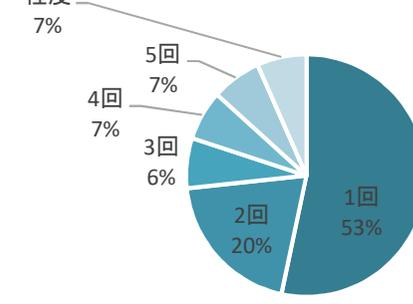
Q8.(イ)2017年(実施頻度)



Q8.(ウ)2018年(実施頻度)



Q8.(エ)2019年(実施頻度)

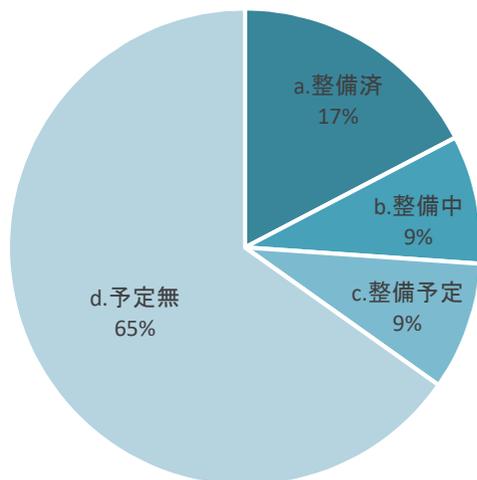


- 社会実験を行う地域は2016年の40%から、2019年に60%まで増加。
- 社会実験の年間頻度は1回が多いが、2017年以降は2回から5回が3割から4割程度に増加。

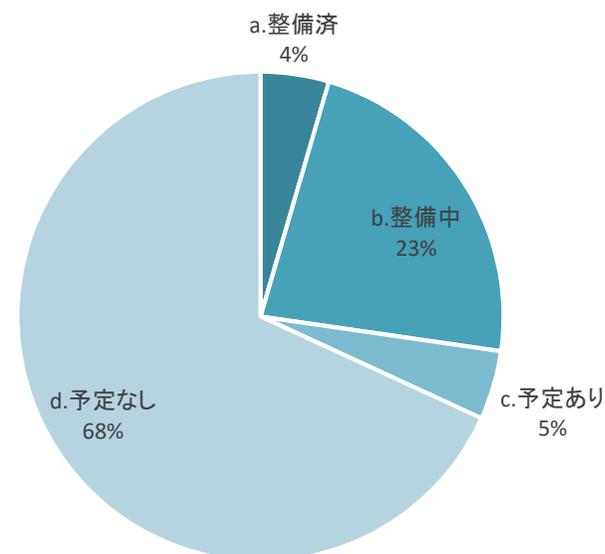
### 3.ハード整備

Q9.試験的に河川の利活用を行う社会実験等を  
基に、今後、ハード整備を実施する予定はありま  
すか？

(ア)ハード整備の状況：



Q11.かわまちづくり支援制度の活用したハード  
整備について教えてください

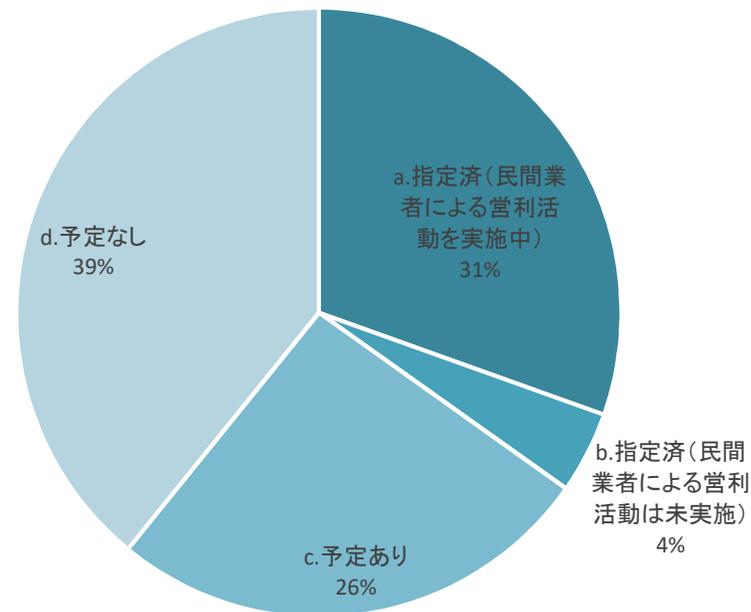


- 整備済、整備中が1/4、整備予定は9%。予定なしが65%。
- かわまちづくり活用のハード整備は、整備済、整備中が1/4、7割で予定なし。

→ミズベリングは必ずしもハード整備を目的とするものではないが、1/4で整備が行われている。

## 4.都市・地域再生等利用区域の指定

Q10.河川敷地占用許可準則における「都市・地域再生等利用区域の指定」の活用状況を教えてください



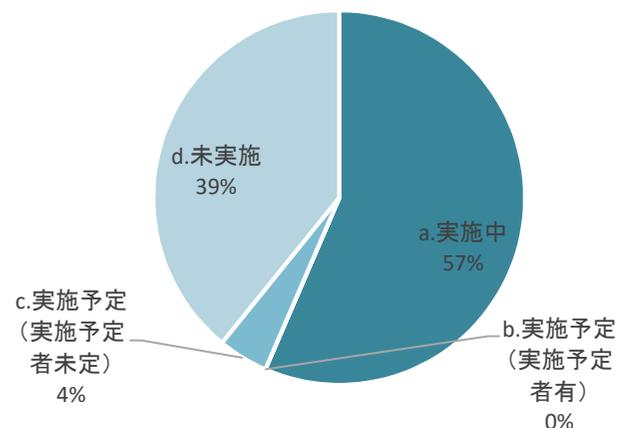
- 区域指定を1/3で指定済み、1/3で予定あり。
- 区域指定済み地域では、民間事業者がほぼ営利活動を行っている。

→全国の河川で、積極的に区域指定が行われ、実施意向も高い。

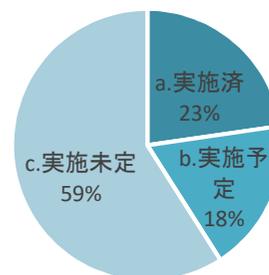
## 全国ミズベリング会議アンケート調査結果から見えること

### 5.民間事業者の参入

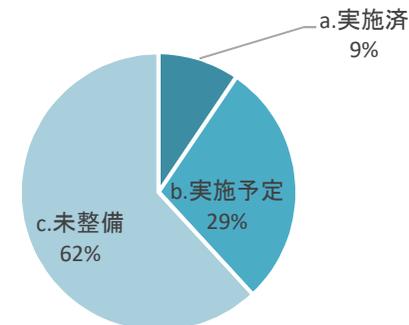
Q12.(イ)民間事業者による利活用及び  
営利活動の状況:



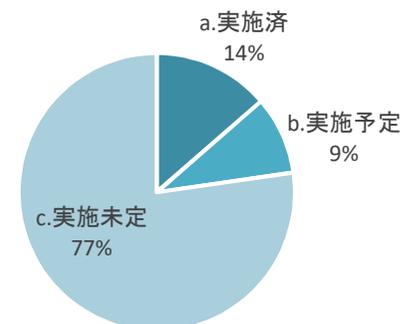
Q12.(オ)民間事業者の公募



Q12.(カ)貴団体における民間事業者による営  
利活動のためのルールの制定:



Q12.(キ)民間事業者の維持管理運営の  
委託



- 6割近くで民間事業者による利活用が行われている。
- 民間事業者の公募は4割で実施済、予定。
- 営業活動のためのルール制定は4割で実施済、予定。
- 維持管理運営の民間への委託は1/4で実施済、予定。

→全国の河川で民間事業者の参入が進み、公募やルール制定も行われている。  
民間への維持管理委託も見られる。



川ろうぜ!

It's about time we get involved in our river .